選手も応援団も勝利を信じ気勢を上げる中、9時1分、開始を告げるサイレンが鳴った。

迎える相手は甲子園常連校で、秋の近畿ブロック大会優勝校の天理高校。

1回の表、先攻の鳳鳴は2死から主将小貫が四球で出塁、大きなリードで相手投手を揺さぶるが、後続を断たれ無得点。1回の裏、鳳鳴の先発はエースの齊藤。立ち上がりはやや硬さが見え、ボールが先行するも得意のカーブは切れている。1死から味方のエラーで出塁を許し、2死3塁から相手4番がセンター前に落ちそうな打球を放つが、セカンド篠村が大きく回りこみ好捕。ピンチをしのぐ。

2回表、鳳鳴の校歌がグラウンドに響く。力付く鳳鳴に、この試合の大きなヤマ場が早くも訪れる。先頭佐々木がレフト前に流し打ち、チーム初ヒットで先取点奪取に向けて口火を切る。

7回表、篠村が全力で駆け抜けて内野安打

1死後、田子、成田が連続死球で満塁。応援にも熱が入る。しかし、相手投手が力投し後続がつながらず無得点。リズムに乗れず。2回裏、1死後から出塁を許すも、相手の3盗をキャッチャー成田が落ち着いて刺す。

3回表、2死2塁のチャンスをつかむが無得点。そして、3回裏が魔の回となった。先頭が3塁線を破り2塁打、次の送りバントは見事に防ぐが、次打者が四球で1死1・2塁。ここで、相手が送りバントを試み、キャッチャーからファーストへの送球が打者走者にぶつかり、ファールグラウンドを転々としている間に先取点を奪取される。その後4連打などを浴び、一挙7点を計上。齊藤はこの回で降板となる。

4回裏からは湯沢が登板。2死2塁から相手4番に三遊間を割られ、1点を計上。その後湯沢は5回まで力投。

5回表、2番吉田がライト前ヒットを放つものの後続がつながらず。

8回表、佐久間がライト前ヒットで出塁

6回表、先頭が死球で出塁、8番佐藤がライト前ヒットを放ち、2死1・2塁。鳳鳴は代打に富樫を送るが、残念ながらセカンドゴロに終わる。6回裏からは亀田が登板。8回まで好投を続け、相手打線を無安打に封じた。

7回表、先頭が内野安打で出塁するも後続が併殺打。

8回表、天理は最速148kmのエース西口をマウンドに送る。何としても反撃したい鳳鳴の先頭打者は4番佐久間から。見事に相手の140kmの速球を捕らえライト前ヒット。続く佐々木もライト前に運び0死1・2塁。代打阿部のショートゴロで1死1・3塁となるが、後続が併殺打。1点が遠い。

ついに最終回。連続四死球でまたしても0死1・2塁のチャンス。しかし待望のタイムリーヒットが出ず無念のゲームセット。

次こそは鳳鳴校歌を

▲テレビを通じて声援を送る市民（市内大型店）

◀届け！精いっぱいの応援

夢と感動をありがとう

家族3人で鹿角市から応援に駆け付けつけた丸岡克彦さん「全力で試合を楽しんで、あこがれの甲子園で自分たちのプレイを一生懸命頑張って欲しい」。

昭和34年卒、同校OBで三重県亀山市在住の増村幸男さん「(50年間、甲子園で野球観戦を続けていて)ここで鳳鳴球児たちの活躍ぶりを見るのが夢でした。今日来れなかっためいの子ども(野球部OB)の分も応援します」。

昭和63年当時、ピッチャーで、家族4人で応援に駆け付けた小林丈洋さん(新地)「待ちに待った晴れ舞台。勝敗にとらわれず、自分の力を発揮して一生懸命プレイして欲しい。息子の代になったらまた甲子園に来ます！」。

小貫主将の母・寧子さん（東雲町）「全力でぶつかって、みんなの力で勝利を手に入れて欲しいです」。